

ゆび募金 だより



No.

13

会報 第13号



「花咲け、薬学・生命科学」

学校法人 東京薬科大学

薬学部／生命科学部

所在地：東京都八王子市堀之内 1432-1

創立 135 年の歴史と伝統

東京薬科大学は、今年で 135 年目を迎える日本の私学の中では最も古い薬科大学です。全国の薬学部の中で最多となる薬剤師を輩出するとともに、研究にも力を入れ、様々な分野で確実に実績を上げてきました。

また 1994 年には生命科学部を開設しました。他大学とは違う、医学・薬学に強いという特徴をもって、社会が求める知識と技術を兼ね備えた人材の育成を目指しています。

実践力とコミュニケーション力を兼ね備えた薬剤師養成

日本ではかつて薬は医師に付随していたものでしたが、医薬分業が進み、薬剤師の独立性が重要となっています。薬の飲み合わせの可否など、患者さんの立場に立って考えられることが必要です。薬学教育は、コミュニケーション能力や患者・生活者本意の視点というものを重視したカリキュラムを組み、「薬の専門家」として適切な知識・技能・態度を有する薬剤師の養成を行っています。

また、2006 年に薬学教育が 6 年制となり、臨床教育が重視されて以来、模擬患者さんに薬の飲み方を説明するロールプレイング授業や、病院や薬局での実務実習が必修化となりました。そこで、本学では 2014 年に東海大学医学部付属八王子病院に隣接した大規模な薬局機能を有する「本学附属社会医療研究センター・所属薬局」を開設し、薬学生にとって十分な研修スペースを確保するなど、高度で良質な実務実習施設の整備を図っています。

夢とロマンで未来を拓く生命科学部

生命科学部については、他の大学では理工学部や農学部を母体としていますが、本学部は薬科大学として医学・薬学に強いという特徴を持っています。高齢化社会を背景に生命科学の発展に大きな関心と期待が集まり、生命科学を学ぶ学生や研究者が近年大きく増加しています。

社会貢献に対する意識は高い

大学の存在そのものが「教育」「研究」「社会貢献」という 3 点を柱にしており、研究等で得た成果を地域に還元するためのさまざまな取り組みをしています。

学生に関しては、もともと医療人を目指すものとして意識が高いと思われますが、東日本大震災以降、さらに積極的にボランティアなどに取り組む学生も増えています。

今後も、専門的知識と技術に加え、人間力を兼ね備えた人材を育むべく努めていきたいと思っています。自動販売機からの寄付金は、「学生のための奨学金制度」に役立てたいと考えています。



散剤（粉薬）の薬塵を収集する機能を備えた調剤台のある実習室



模擬患者さん相手のロールプレイの様子



君津サンクリニック

君津サンクリニック
院長: 孫 莉玲
所在地: 千葉県君津市内箕輪1-2-9

全ての方とともに

君津サンクリニックは、平成 26 年 11 月に千葉県君津市に開業致しました。院長の専門である循環器領域から、一般内科、小児科にわたり診療を行っており、地域の皆様に寄り添って、一日一日を元気に、大切に生きていくことをモットーに、スタッフ一同頑張っております。

また、自身の留学体験から、外国語（中国語・英語）による診療にも対応しており、近隣の学校で学んでいる留学生の方や、地域に住んでいる外国から来た方も通院しています。

一人の「地球人」として

院長はかねてから、全ての方が国籍・人種・ジェンダーなどに関係なく、互いに認め合い、助け合っていける社会になってほしいとの強い願いがあり、「国境なき医師団」の活動に共感し、寄付してきた経緯があります。

開院後にご縁があって、昨年 12 月より「ゆび募金」に参加させていただくことになり、この団体の活動をもっと広く皆様に知っていただくきっかけになればとの思いから、寄付先に「国境なき医師団」を指定しました。

設置後、来院する方々のみならず、時々、クリニックの前を通る車のドライバーの方が、わざわざ立ち寄って、自動販売機から飲料を買っていくのを見かけます。その度にとっても心が温まり、清々しい気分になります。この小さな善意の輪が少しずつ広がっていけば、これ以上の喜びはありません。



君津サンクリニック外観と
ゆび募金自動販売機

支援者 のご紹介

夢と希望のある会社

エヌティシィ株式会社は、「快適な社会生活を創造する」をモットーに、参加された代理店、及び消費者と共に、経済的、精神的、肉体的に健康で夢と希望のある会社になることを理念としております。

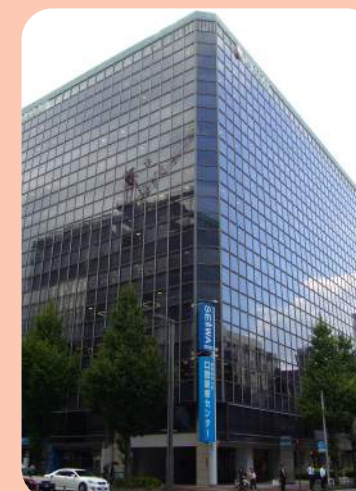
21世紀のネットワーク社会の中で

弊社は、高度情報化社会の中で、情報と流通を一本化した独自のコンピューターシステムにより、消費者のニーズに合った企画、開発、情報、商品、サービス等を提案し、21 世紀のネットワーク社会におけるライフスタイル、ビジネスモデルを広く社会に普及促進することで、「社会に貢献する」ことを目指しております。

ゆび募金を通じた社会貢献

弊社の社会貢献活動の一環として、ジャパン・カインドネス協会の趣旨に賛同し、全国の代理店（パートナー）を通じて、ゆび募金自動販売機の設置を全国に推進しております。

ゆび募金を通じて社会貢献の輪が広がっていくよう、これからもお手伝いできれば…と考えております。



事務所のある日本生命ビル

エヌティシィ株式会社

エヌティシィ株式会社
代表取締役: 樋口 敏雄
所在地: 福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1
日本生命博多駅前ビル5F

寄付先団体の
活動を知ろう！

認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会

【設立】平成6年 【代表】理事長 細川 佳代子
【所在地】東京都港区 【URL】<http://www.jcv-jp.org/>

ワクチンで助かるちいさな命を救いたい。

ワクチンで予防できる感染症で命を落とす子どもの数、1日4,000人。

世界の子どもにワクチンを 日本委員会（JCV）は、ちいさな命を救うため、開発途上国にワクチンや関連機器を贈る活動を20年以上続けています。

主な支援国は、ミャンマー・ラオス・ブータン・バヌアツ。ワクチンが無事に子どもたちに接種されるには、いくつものステップがあります。

ゆび募金をはじめ、多くの方々のご寄付で贈られるワクチンは、現地の人々の地道な努力によって、子どもたちに届けられています。

ご寄付がワクチンに換わるまで



ミャンマー連邦共和国 ワクチン保冷库 技術者



「ワクチンを守るには常に保冷库内を一定温度に保つ必要があります。停電に備え、毎晩スタッフ2名が向かいの小屋で寝泊りして深夜や明け方の停電に備えています。」

ミャンマー連邦共和国 サポートウイン村保健所 看護師



「村から最寄りの病院までは、牛車で3時間かかります。また雨季には川が増水し、対岸に渡る事ができなくなることもあります。このような地域では、ワクチンで感染症予防に努めることは特に大切です。」



(画像提供：JCV)

【事務局より】ジャパン・カインドネス協会では、認定NPO法人取得に向け準備中です。そのため、今後は寄付報告時に本会発行の領収書を同封いたします。詳細は事務局までご確認ください。

また、本会の活動理念に賛同してくださる方を随時**会員**または**賛助会員**として募集しています。ご連絡お待ちしております！

編集後記

JK協会は、9月で19年目に入りました。ここまでゆび募金事業を続けてこれましたのも、支援して下さる皆様のおかげと心より感謝しております。

寄付文化が根付いているとはいえない日本社会の中で、それでも時代の変化とともに、社会貢献活動への理解が少しずつ深まってきたのではないかと思います。

創立以来、JK協会の理念はまったく揺らぐことなく継続してまいりました。

これからも引き続き、ご支援・ご協力のほど、お願い申し上げます。

最後に、会報13号作成にあたり、ご多忙の中ご協力賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。

ゆび募金だより 会報第13号

発行日：2015年10月1日

発行：特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会

〒186-0004

東京都国立市中1-18-41 栄ビル301

TEL:042-571-2233 FAX:042-571-2263

E-mail: info@jkkyoukai.com

URL <http://jkkyoukai.com/>